

令和6年12月24日

令和6年度 2学期終業式あいさつ

- みなさん、こんにちは、校長の都丸です。
- 本日は、令和6年度2学期の終業式です。みなさんにとって今年度の2学期はどのような学校生活でしたでしょうか。また、2学期の終業は年末であり、令和6年が終了することと重なります。みなさんにとって令和6年はどのような年だったでしょうか。
- まずは、2学期ですが、文化祭があり、2年生は修学旅行もあり、生徒会選挙や、部活動では新人戦など、そして3年生は進路活動と多くの催しがありました。みなさんにとって満足したものになったでしょうか。それは、自身の成長や自信につながったでしょうか。
- そして今年、令和6年はどうだったでしょうか。元旦から能登半島地震がありました。震災された地域では大雨も重なり今なお復興できていない状況です。1年生は高校受検がありました。夏の異常気象により過去最も暑い9月となり、10月まで暑い日が続きました。ちまたでは、パリオリンピックの開催や、新札が発行されました。大谷翔平選手が50-50を達成しました。さまざまなことがありました。
- みなさんにとってどのような年だったのでしょうか。しっかりと振り返り、次のステップにつなげてもらいたいと思っています。
- 私自身、今年は、生徒のみなさんと関わることが多かったように感じています。霧が丘高校に着任して2年目ですが、みなさんから、そして先生方から、比較的多くの生徒と関わる機会をいただきました。
- そこで感じたことですが、これまでのみなさんの印象は、「素直で、優しく、明るく、しっかりとあいさつができる生徒たち、授業はしっかりと受け、行事は思いっきり楽しむことができるメリハリのある学校生活ができている」そんな風に感じていました。もちろん、今もそう思っています。
- しかしこの1年で感じたことは、霧が丘の生徒のみなさんに対して、「もっとできる。」という言葉が今、私には浮かんでいます。
- どうしてか。例えば、先生方の授業観察にいった際に、みなさんの意見や自らの考えを書き出しているところをみさせていただきました。とってもよい意見や「なるほど、そんな考え方をするんだ」などと、感心させられることもありました。学校行事においてもとても素晴らしい発想や企画があったり、部活動でも試合や発表をみさせていただくことがありましたが、いつもとは違う表情で、全力で取り組んでいる姿などを見ていると、皆さんは、「もっとできるのに」と感じたからです。
- もっとできるのに、自分に蓋をしてしまっているというか、自らのよいと

ころを理解していないのか、もっと自分自身のよいところ、得意なところを推し進めていければ、みなさんはもっともっと大きな成長できると思います。

- 霧が丘高校のキャッチフレーズは、「チャレンジ ～未来を切り拓け～」です。チャレンジすることはとても勇気のいることだと思います。私はみなさんと話をする中で、先をみて行動するようにと伝えることが多く、その意味では、先をみて「失敗」を恐れてしまい、チャレンジできないでいるのかな、とも感じました。
- もちろん、先をみて行動することは大切ですが、チャレンジして失敗を恐れるよりも、チャレンジして成功した時のことを思い浮かべてもらいたいと思います。
- 誰しも、よいところ、得意なところがあります。苦手なところ、不得意なところがあります。まずは、自分のよいところ、得意なところを受入れていくことがよいのではないのでしょうか。
- 自分のよいところ、得意なところをしっかりと理解し、受入れ、もっと自信をもっていくことを進めたいと思います。
- 本校は、インクルーシブ教育実践推進校です。自分のよいところ、得意なところ、他者のよいところ、得意なところを認め合い、学校全体でポジティブにものごとが進められたら、もっと学校生活が活発になり、実りあるものとなると思います。
- 来年は、乙巳（きのとみ）です。「努力を重ね、物事を安定させていく」といった意味があります。
乙（きのと）とは、「困難があっても紆余曲折しながら進むこと、しなやかに伸びる草木」を表しています。
巳（み・へび）は、「再生と変化」を意味しています。脱皮し強く成長する蛇は「不老長寿」を象徴するそうです。
- みなさんの来年のさらなる活躍を期待しています。よい年をお迎えください。

校長 都丸 利幸